

環境審議会総会における「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」素案に対する意見について

1 意見と意見に対する事務局の考え方等

意見	意見に対する事務局の考え方及び他委員からの意見等
<p>○今回の素案で出されている計画は、ごみの総量を減らすものでなければならないが、数値目標は原案にて設定と後回しになっている。目標の白紙委任であり、目標が提示できない素案は、今日この場で採択すべきものではない。再度この審議会へ諮るべきである。</p> <p>○想定を上回る人口の増加や、事業所数の増加により、現計画目標が達成できていないことが仕方がないことのように説明されているが、条例には市の責務としてごみ減量の推進がうたわれている。市の責務であるごみ総量の減量が達成できていないことの分析もなく、このまま計画改定を進めるのは大問題である。</p>	<p>【事務局】</p> <p>○今回は素案として作業部会で検討しているものの経過報告であり、採択すべきかどうかではなく、素案に対して、ご意見をいただきたいという趣旨である。</p> <p>○ごみ総量としては横ばいであるが、原単位では減少傾向にあり、市民事業者の取組みが一定評価できる部分はある。</p> <p>○新計画では5年間の実行計画により、5年毎に確実に見直しを図っていくことで、人口や社会情勢の変化とともに、ごみ減量施策のトレンド等を把握したうえで、計画を進めていきたいと考えている。</p> <p>【委員】</p> <p>○環境審議会は、環境の保全に関する事項を審議するものであり、人口増などの外部要因については、予測が困難な部分がある。</p> <p>○その中で、原単位を減らすことを、計画の目標として定めることはできるが、一方で、人口が増えればごみの総量が増えるのは致し方ない部分がある。逆に言うと、人口が減ればごみの総量が減るが、それでよいかというと、それは違うのではないかと。ごみの総量だけで議論すると、間違った方向に向かってしまうのではないかと考える。</p> <p>【委員】</p> <p>○現計画の策定時、交流人口やインバウンドなどはどうしても予測できなかったことであり、そこは大きな反省に立って改定作業を行っており、この審議会でもご意見をいただければその内容も反映していきたい。</p> <p>【委員】</p> <p>○ごみの総量だけでなく、それをどれだけ資源に回せるか、経済と両立するという面では、リサイクル率など様々な指標もみながら総合的に判断していく必要があり、単にごみの総量だけで評価するのは、難しいのではないかと考えている。</p>

意見	意見に対する事務局の回答 及び他委員からの意見等
<p>○一般廃棄物処理基本計画という名称が固いので、市民事業者に身近な問題として捉えてもらえるように、サブタイトルを付ける等の工夫をしてほしい。 市民事業者がどう行動すればよいのか、SNSの活用等、届きやすい情報発信に取り組まれるよう要望する。</p>	<p>【委員】 ○現計画も、「新循環のまち・ふくおか基本計画」がメインのタイトルとなっており、市民事業者が関心を持つような名称について、検討していただきたい。</p> <p>【委員】 ○新計画については、ごみ減量に関連する Slim (スリム) 減量 Simple (シンプル) 簡素 Share (シェア) 共有 といったフレーズを使ったキャッチコピーを作る等、市民事業者に届く情報発信を検討していただきたい。</p>
<p>○プラスチックごみについては、発生抑制の取組みが重要で、政令指定都市ではプラスチックごみを分別収集していないのは、3市のみといった状況の中で、今後、福岡市として、プラスチックごみのリサイクルをどのように考えているのか。</p>	<p>【事務局】 ○プラスチックごみに関しては、一番大事なのは、発生抑制であり、リフューズ、リデュースの推進を市民事業者にしっかり広報啓発し、周知をしていくことが非常に重要である。</p> <p>○リサイクルに関しては、環境負荷の低減につながるよう、効果的・効率的なリサイクルの方法について検討していきたいと考えている。</p>

2 意見の計画への反映について

環境審議会総会での意見を踏まえ、原案の策定過程において、具体的な施策や数値目標・取組指標を検討し、新計画に反映していく。